令和５年度第４回福岡県性暴力対策会議性暴力対策アドバイザー派遣制度に関する専門委員会　議事要旨

１　日時
令和６年２月１６日（金）９時１５分～１１時００分
（オンライン会議）

２　出席者
参考資料２「福岡県性暴力対策会議性暴力対策アドバイザー派遣制度に関する専門委員会委員名簿」のとおり

３　議事概要（●は委員の、→は事務局の発言）
(1) 議題１「令和５年度小学校低・中学年に対する先行実施派遣結果について」及び議題２「小学校低・中学年テキストの見直しについて」
○　資料１「令和５年度小学校低・中学年に対する先行実施派遣結果について」、資料２－１「小学校低学年向けテキスト見直し（案）」及び資料２－２「小学校中学年向けテキスト見直し（案）」により事務局から説明を行った。

○　委員により、以下の議論が行われた。
●　事務局から「あなたにとっての『いいタッチ』とは？」のテキストを削除するという提案があった。アドバイザーの意見のとおり「いいタッチ」を深める必要はないと思うが、削除する場合「いいタッチ」の説明が不足する。例えば「いいタッチ／いやなタッチ」を説明するテキストの中でもう少し「いいタッチ」について補足する形を取ってはどうか。

●　「いいタッチ／いやなタッチ」部分では、子どもたちにグルーミングについて理解してほしいと考えている。「『いいタッチ／いやなタッチ』を判断するのは自分」ということは伝えているが、同じ人からされるタッチが「いいタッチ」から「いやなタッチ」に変わる場合もある。それを子どもたちが感じることができるか、また、その際に子どもたちが訴えられるかといった点が大切であるため、「いいタッチがいやなタッチに変わっていくこともある」「タッチに対する感じ方が変わっても大丈夫」ということを伝える必要がある。

●　「いいタッチ」が「いやなタッチ」に変わることもあれば、「同じ人からのタッチが常に『いいタッチ』とは限らない」という点も大事である。

●　「いいタッチがいやなタッチに変わっていくこともある」「タッチに対する感じ方が変わっても大丈夫」という点は、子どもたちがタッチについて考えるワークの後に追加した方がわかりやすいと感じる。「いいタッチ／いやなタッチ」の最初の説明部分で触れると子どもが混乱するのではないか。

→　テキスト「あなたにとっての『いいタッチ』とは？」は案のとおり削除する。その上で、「いいタッチ」について説明を厚くしたい。委員指摘の「『いいタッチ』が場合によっては『いやなタッチ』に変わることもある」ことと併せて、テキスト「どんなきもちになるのかは、ひとそれぞれだよ」のナレーションにおいて対応したい。

●　講義に当たっては、アドバイザーが講義の根幹が何なのかということを理解した上で実施することが大切。単に用意されたナレーションを読むだけにならないよう研修において啓発してほしい。

●　テキスト「みかたになってくれる大人の人におはなししていい」は、テキスト内で一番重要だが、「どのように話したらいいのか」という具体的な行動に繋がるような話がない。「話せそうなところから話していい」「話せないようなら、気持ちの面から話していい」等の行動のヒントになるような文言を入れたらいいのではないか。

(2) 議題３「小学校高学年テキストの見直しについて」

○　資料３「小学校高学年向けテキスト見直し（案)」により事務局から説明を行った。

○　委員により、以下の議論が行われた。

●　「持ち物の境界線」の部分でＳＮＳ等について触れられているが、この文脈の中で話をするのはわかりにくい。ユネスコの『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』においても別項目として取り扱われている。別の方法を検討いただけないか。

●　スマートフォンを持ち始める高学年は、ネットのトラブルが身近にあるため、内容として触れた方がいいと感じる。子どもにとって、自分の情報が「持ち物」という概念はないと思うが、自分の情報は自分のものだから大切にしないといけないという点は伝えていいのではないか。また、中学校で「ネットと性暴力」に触れるため、その導入としても必要ではないか。

●　学校現場としてはこの点に触れていただけるとありがたいが、講義の趣旨に沿ったものを検討いただきたい。

●　広くとらえると情報も持ち物という整理ができるため、「持ち物の境界線」の次にテキストを追加する形として対応してはどうか。

●　「境界線」や「情報も持ち物」というのは、抽象的であるため、子どもに伝わるのか懸念がある。境界線の話ではなく、中学校で取り扱う「ネットと性暴力の話」を小学校高学年でも取り扱う方がいいのではないか。

● 小学校高学年におけるＳＮＳのトラブルは「友達の写真を勝手にネットに載せる」「友達の写真を勝手に加工する」等、性的な絡みではないところが多い。中学校で取り扱う「ネットと性暴力」の話は、小学校高学年にとっては早いのではないかと感じる。

● 持ち物は「目に見えて触れられるものだけ」と考えているかもしれないが、写真や情報も大事なものであるから、勝手に触ったり持ち出したりしてはいけないという文脈で取り扱うといいのではないか。

● 「境界線」の説明については、冒頭の自己紹介の後、ナレーションの中で行うべきではないか。新しい概念を取り扱った後、すぐに言葉を説明した方がいいと感じる。

(3) 議題４「令和６年度性暴力対策アドバイザー派遣事業実施方針について」

○ 資料４－１「令和６年度性暴力対策アドバイザー派遣事業実施方針について」及び資料４－２「アンケート（案）」により事務局から説明を行った。

○ 委員により、以下の議論が行われた。

● 特別支援学校（知的）の派遣については、特別支援学校における全校実施に向けた検討会において毎年実施すべきとの意見もあったが、本事業に頼りきりになるのはいかがなものかとの考えがある。一定のサイクルでアドバイザーを受け入れつつ、児童生徒の状況を一番把握している教員が、実態に合った教育も実施していく方が効率的かつ効果的ではないかと考えている。

● １年生では、ひらがなが書けなかったり、書くのに時間がかかったりする子どもがいる場合もある。記述式とした場合、アドバイザーや担任の支援がどれくらい必要になるのかという新たな課題がある。

→ 記述式又はこれまで同様の択一式かについて学校に選択してもらってもよい。

● 最後の設問のみ選択式となっているが、「大事なところの約束が破られたとき、どうしますか」等の自由記述にした方が、子どもたちの気持ちは出やすいのではないか。ただ、その場合、記述量が増えアンケートに時間を要するという懸念もある。

● 低学年にとって、気持ちを文字にすることは難しいのではないか。記述式で実施する場合は時間もかかるため、アドバイザーがその都度授業の組み立てについて考える必要が出てくる。

● 学校にアンケートを選択してもらう場合（択一式か記述式か）、アドバイザーの講義の時間配分や組み立てに影響が出てくる。最後のみ記述式とする見直しがいいのではないか。

→ アンケートは令和５年度で実施したものを基本とし、最後の設問に自由記述を追加する形としたい。